

### 第145期 中間(第2四半期)のご報告

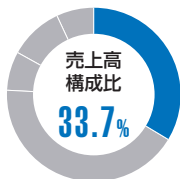
2011年4月1日～2011年9月30日

古河機械金属グループの全体像 .....	1
Close-Up 不動産・燃料その他事業 .....	2
株主の皆様へ .....	3
特集 次期中期経営計画に向けて .....	5
事業部門別の概況 .....	7
連結決算の概況 .....	11
Q&A .....	13
会社概要及び株式の状況 .....	14



新興国ではインフラ整備や資源開発分野において、  
先進国では最先端の技術を駆使した製品開発で社会の発展に貢献しています。

機械

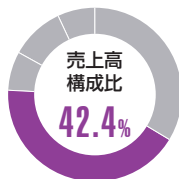


都市づくりを  
「機械」で支える

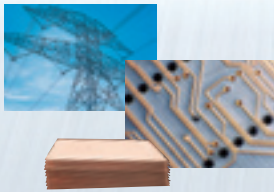


- 産業機械事業  
古河産機システムズ(株)
- 開発機械(ロックドリル)事業  
古河ロックドリル(株)
- ユニック事業  
古河ユニック(株)

金属

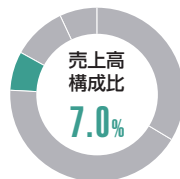


社会インフラを  
「銅」で支える



- 金属事業  
古河メタルリソース(株)

電子・化成品



豊かな暮らしを  
「素材」で支える



- 電子材料事業 古河電子(株)
- 化成品事業 古河ケミカルズ(株)

塗料



生活空間を  
「塗料」で支える



- 塗料事業 (株)トウベ

不動産・燃料その他



ビジネスシーンを  
「サービス」で支える



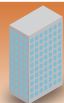
- 不動産事業  
古河機械金属(株)
- 燃料事業  
古河コマース(株)



# 不動産・燃料その他事業

## ビジネスシーンを「サービス」で支える

オフィスビルの賃貸などを行う不動産事業、  
また石油関連製品を販売する燃料事業を展開しています。



### 不動産事業

#### 快適なビジネス空間を提供

所有するオフィスビルの賃貸や不動産の仲介斡旋などで、快適なビジネス空間を提供。近年は所有ビルのインテリジェント化を進めているほか、日本橋地域の再開発プロジェクトにも参画しています。



#### 事業会社

古河機械金属(株) 不動産本部

#### 沿革

- 1957 古河不動産(株)設立
- 2003 古河不動産(株)を古河機械金属(株)に吸収合併



### 燃料事業

#### エネルギー源を安定供給

石油とその関連製品である揮発油(ガソリン)、灯油、軽油、重油、潤滑油、有機溶剤のほか、LPGや、製鉄などの分野で燃料として用いられるコークスも販売しています。



#### 事業会社

古河コマース(株)

#### 沿革

- 1894 炭鉱の経営に着手し石炭事業に進出
- 1960 エネルギー革命により、事業の主体が石油関連製品販売に年代
- 2008 吸収分割により燃料事業を子会社の古河コマース(株)に承継することでグループ内の燃料事業を集約

## TOPICS

### 日本橋室町東地区の再開発に参画

日本橋地域の活性化と新たな魅力を創造する「日本橋再生計画」。当社は、その一環である「日本橋室町東地区再開発」プロジェクトに参画しています。当社古河ビル(解体済)の所在地が再開発地区に含まれており、都市計画に協力することとしました。

本プロジェクトのなかで、三井不動産(株)などと共同で当該地区に大型複合ビルを建設中であり、2013年12月の完成を目指しています。



建設中の大型複合ビル(イメージ)



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。また、東日本大震災によって被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

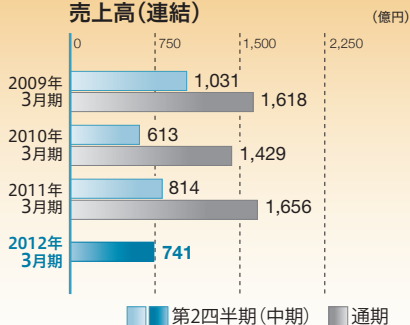
ここに第145期第2四半期連結累計期間(2011年4月1日から2011年9月30日まで)の決算の概要をご報告申し上げます。

### 当該期間の経営環境と業績について

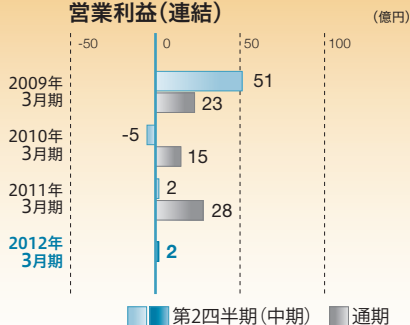
当該期間の日本経済は、東日本大震災によって打撃を受けたサプライチェーンの立て直しが進み、景気は持ち直す傾向にあります。米国債の格下げや欧州債務危機などを背景として円高が急速に進行したことから、依然として厳しい状況が続きました。

このような経済環境のもと、産業機械、開発機械(ロックドリル)、ユニックの機械3事業は、いずれも対前年同期比で増収となりましたが、東日本大震災の影響を受けた金属事業、電子材料事業は減収となり、売上高は741億56百万円(対前年同期

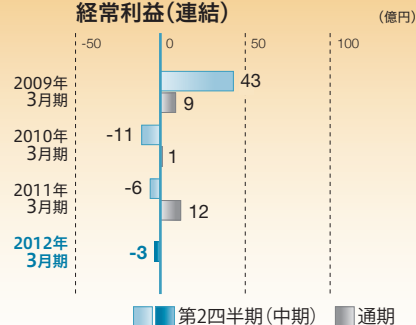
売上高(連結)



営業利益(連結)



経常利益(連結)





比73億1百万円減)となりました。利益面では、電子材料事業が対前年同期比で減益となりましたが、機械3事業で増益となり、急速な円高に対応するためにさらなるコストダウンなども推進した結果、営業利益は2億98百万円(対前年同期比37百万円増)、経常損失は3億45百万円(対前年同期比2億84百万円の損失減)となり、採算は改善しました。しかしながら、特別損失に投資有価証券評価損32億36百万円などを計上したため、第2四半期純損失は32億59百万円(対前年同期比30億22百万円の損失増)となりました。

なお、中間配当につきましては、誠に遺憾ながら実施いたしませんので、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

## 中期的な戦略について

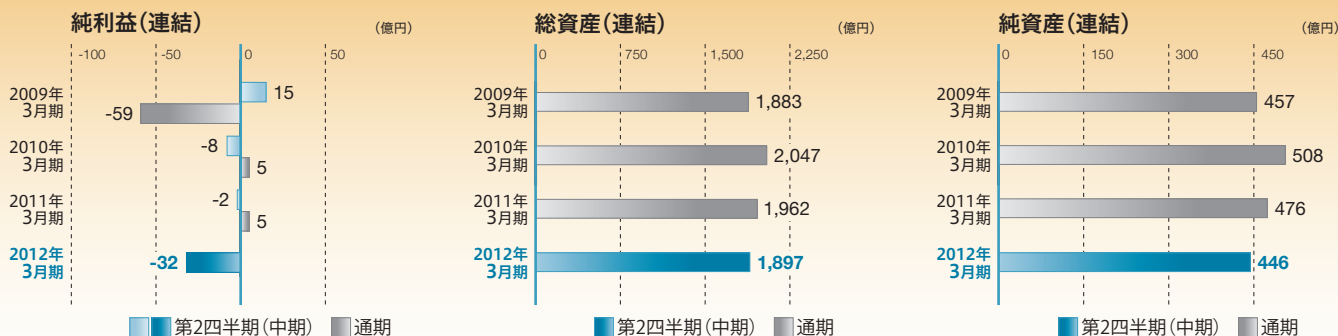
当社グループは、2011年度を足場固めの一年と位置付けております。2010年度に終了した前中期経営計画では、世界経済情勢の激変もありましたが、基本方針である「機械事業

の技術力強化と更なる海外展開の推進」並びに「新製品の事業化に向けた開発の促進」を堅持し、強力で推進することで、業績の回復に全力で取り組んでまいりました。現在、東日本大震災の影響や今後の事業環境を見直し、前中期経営計画の基本方針をさらに進化させた次期中期経営計画の検討を進めております。(詳細は特集『次期中期経営計画に向けて』(P5-6)をご覧ください。)

今後も、経営環境の変化に的確・迅速に対応し、社会・企業倫理の面からも、真摯で責任ある企業活動を行ってまいります。株主の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2011年12月

代表取締役社長 相馬 幸義



# 次期中期経営計画に向けて

当社グループは、経営理念「変革、創造、共存」のもと、社会のニーズに応える、創造性溢れるモノづくりに取り組んでいます。

前中期経営計画では、「成長への挑戦」をスローガンに、  
①機械事業の技術力強化と更なる海外展開の推進、②新製品の事業化に向けた開発の促進、という2つの基本方針

を掲げてその実現に取り組んできました。世界同時不況により経済情勢が激変したものの、方針自体は一定の成果を挙げることができました。この結果を踏まえ、新たな中期経営計画の検討を進めています。

## 前中期経営計画 (2008～2010年度)

機械事業の技術力強化と  
更なる海外展開の推進

新製品の事業化に向けた  
開発の促進

### 次期中期経営計画に向けて

次期中期経営計画は、前中期経営計画の基本方針をさらに進化させ、以下の3点を基本に計画の検討を進めています。

## 1. 機械事業の収益基盤の強化

- 国内シェアの一層の拡大を図る。
- 開発機械(ロックドリル)事業において、中国で現地適合機<sup>※1</sup>を市場投入するとともに販売拠点を増設。インド、中南米、アフリカなどでも販売・サービス体制を強化する。
- ユニック事業において、中国、ロシア、インドで販売を強化。また日本、中国、タイで最適な生産体制の確立を図る。

## 2. 素材事業の開発力の強化

- 新素材の開発を推進。汎用性・独自性を兼ね備えた素材力を強化する。
- 「素材+1(プラスワン)」<sup>※2</sup>によって顧客満足度アップを図る。

## 3. ファインテック事業の育成

- 保有技術のうち、先進性が高い「機械」「素材」の関連技術を融合し、独自の新製品の開発を目指す。

※1 現地市場のニーズに適合した機種。

※2 素材の性能を高めるだけでなく、川下展開を推進する戦略。

## 「機械」「素材」の関連技術を融合した、ファインテック事業の取り組み事例

### 窒化ガリウム (GaN) 製品の開発

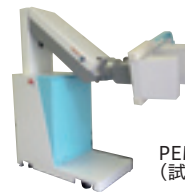
当社は、さまざまな電子機器で利用が期待されるGaN製品の開発を進めています。すでにGaN基板では2インチ品の量産技術を確立し、大学や研究機関向けに出荷。現在は製品の低価格化・大口径化に向けて開発を促進しています。今後は、次世代照明に用いられる高輝度LEDや、電気自動車用パワーデバイスなどに向けて製品を展開する予定です。このほか、出資会社であるパウデック社では、GaNを用いたダイオード製品をパソコン向けなどにサンプル展開しています。



4インチGaN基板(右は2インチ)

### LuAG結晶を用いたPEM装置(次世代乳がん検診装置)

当社が開発したルテチウムアルミニウムガーネット結晶(LuAG)を用いたPEM装置が、臨床試験段階にあります。このPEM装置は、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のプロジェクトとして研究開発されているものです。実用化されれば、小さながんを正確に発見でき、痛みもともなわない検査方法が実現すると期待されています。今後は薬事申請を予定しており、早期の実用化を目指します。



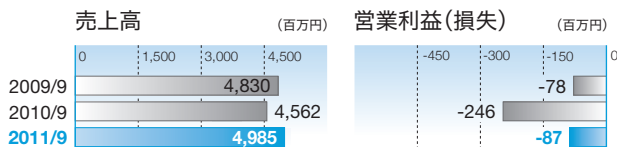
PEM装置  
(試作品)



# 機械

機械事業の売上高は249億87百万円(対前年同期比24億63百万円増)、営業利益は2億13百万円(前年同期は8億18百万円の損失)となりました。

## 産業機械事業



産業機械事業では、鋼構造物、ポンプ、一般産業機械の各製品で順調に販売を伸ばすことができました。この結果、売上高は49億85百万円(対前年同期比4億22百万円増)、営業損失は87百万円(対前年同期比1億58百万円の損失減)となりました。

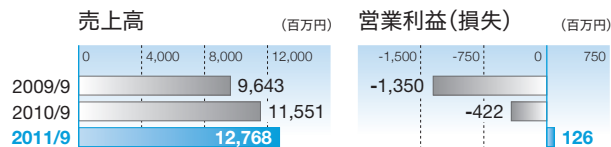


下水処理場で使用されているポンプ

破碎機



## 開発機械(ロックドリル)事業



開発機械(ロックドリル)事業では、国内は震災後の復興需要により、油圧ブレーカ、圧砕機が増収となりました。海外は、円高を背景に中近東や東南アジアでは外国メーカーとの激しい競争が続きましたが、北米や欧州をはじめ、全般的には需要が回復しました。これらの結果、売上高は127億68百万円(対前年同期比12億17百万円増)、営業利益は1億26百万円(前年同期は4億22百万円の損失)となりました。

## NEWS 当社グループ製品がテレビ番組に登場

2011年7月18日、油圧クローラドリルが、フジテレビで放映中の「ほこ×たて～世界で誰も見たことがない対決SHOW～」に「最強のドリル」として登場しました。テレビ媒体を通して、広く当社の製品をアピールする機会となりました。



番組に登場した油圧クローラドリル



## ユニック事業



ユニック事業では、期前半は震災によるサプライチェーンの分断が影響し、普通トラック減産の影響を受けましたが、期後半には回復し、復興需要もあって、売上を伸ばすことができました。この結果、売上高は72億33百万円(対前年同期比8億23百万円増)、営業利益は1億74百万円(前年同期は1億49百万円の損失)となりました。

### NEWS 震災復興支援のための製品を提供

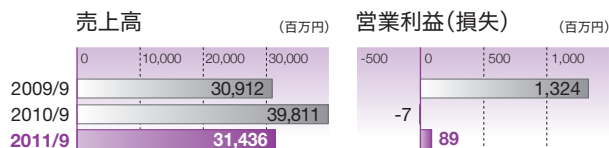
東日本大震災で被害を受けた宮城県の団体に、ユニック製品を無償で提供しました。牡鹿漁業協同組合でミニ・クローラークレーン1台、東北電力グループの工事会社でユニッククレーン2台を復興作業に役立てていただきました。



ミニ・クローラークレーンによる復興作業

# 金属

金属事業の売上高は314億36百万円(対前年同期比83億74百万円減)、営業利益は89百万円(前年同期は7百万円の損失)となりました。



電気銅の海外相場は期後半に急落する展開となりました。期前半は4月に9,336.00米ドル/トンでスタートし、しばらくは軟調に推移したものの、6月以降はギリシャ議会での緊縮財政案の通過などを背景とした対ユーロでの米ドル安から値を戻し、7月の鉱山ストライキの影響もあって、堅調に推移しました。しかし、8月には米国債の格下げや欧州債務危機への警戒感から相場が急落し、7,131.50米ドル/トンで9月の取引を終えました。国内建値は4月に83万円/トンで始まり、期末には60万円/トンとなりました。

主要委託製錬先の一つが震災の影響で6月末まで操業を休止した影響もあり、金属事業は減収となりました。



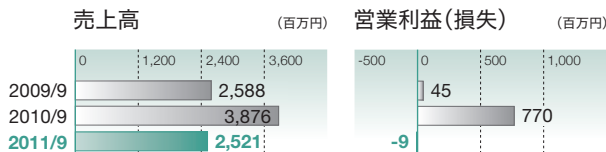
銅の製錬工程



電気銅

## 電子

電子材料事業の売上高は25億21百万円(対前年同期比13億55百万円減)、営業損失は9百万円(前年同期は7億70百万円の利益)となりました。



震災とそれに起因する原発事故の影響や、半導体市況の低迷により、高純度金属ヒ素と結晶製品の販売量が減少しました。

なお、福島県内に位置するいわき工場が震災の影響により操業を休止していましたが、4月中旬に操業を再開しています。



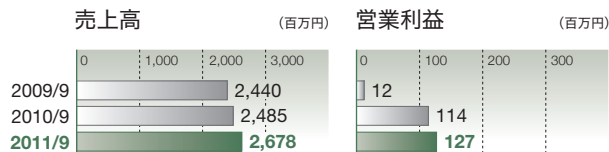
ガリウムヒ素半導体の材料である高純度金属ヒ素

電子部品に使用されるコア・コイル



## 化成品

化成品事業の売上高は26億78百万円(対前年同期比1億93百万円増)、営業利益は1億27百万円(対前年同期比12百万円増)となりました。



亜酸化銅や硫酸の販売が好調となりました。また、新製品である「めっき用酸化銅」も売上を伸ばすことができました。

### NEWS めっき用酸化銅の増産を開始

需要が旺盛なめっき用酸化銅を増産するため、2011年4月に新工場を完成させ、供給を本格的に開始しました。近年のプリント基板の小型化などにもない、銅めっきにも微細な処理が求められるようになり、そのなかで当社のめっき用酸化銅は、従来製品に比べて溶解性や流動性に優れていると高い評価を得ています。



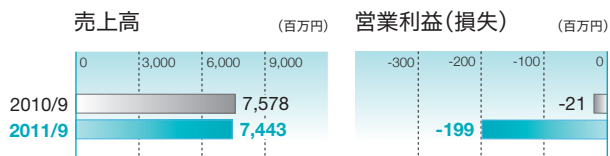
めっき用酸化銅製造設備



めっき用酸化銅

# 塗料

塗料事業の売上高は74億43百万円(対前年同期比1億35百万円減)、営業損失は1億99百万円(対前年同期比1億77百万円の損失増)となりました。



環境配慮型の粉体塗料が堅調に推移したものの、道路標示工事の減少や震災の影響により、全体としては減収となりました。



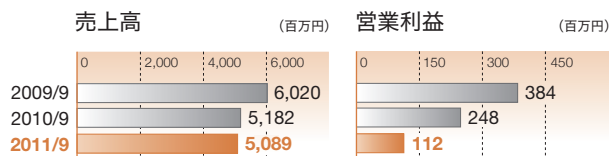
大型建造物にもふっ素塗料使用

塗料製品



# 不動産・燃料その他

不動産・燃料その他事業の売上高は50億89百万円(対前年同期比93百万円減)、営業利益は1億12百万円(対前年同期比1億36百万円減)となりました。



不動産事業は、日本橋室町東地区再開発計画にともなって古河ビルが解体されたことから減収となりました。この結果、売上高は6億34百万円(対前年同期比2億13百万円減)、営業利益は1億98百万円(対前年同期比1億45百万円減)となりました。

燃料事業は、販売価格の上昇により増収となりました。売上高は40億61百万円(対前年同期比1億27百万円増)、営業損失は22百万円(対前年同期比17百万円の損失減)となりました。



古河大阪ビル



石油関連製品

# 連結決算の概況

## 連結貸借対照表(要旨)

(百万円)

区 分	前連結 会計年度 2011年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間末 2011年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	80,199	77,508
固定資産	116,035	112,201
有形固定資産	85,657	85,164
無形固定資産	836	752
投資その他の資産	29,540	26,285
<b>資産合計</b>	<b>196,234</b>	<b>189,710</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	70,456	69,322
固定負債	78,156	75,756
<b>負債合計</b>	<b>148,612</b>	<b>145,079</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	45,472	42,267
資本金	28,208	28,208
利益剰余金	17,309	14,105
自己株式	△45	△45
その他の包括利益累計額	376	790
新株予約権	53	53
少数株主持分	1,720	1,519
<b>純資産合計</b>	<b>47,622</b>	<b>44,631</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>196,234</b>	<b>189,710</b>

Point 1

Point 2

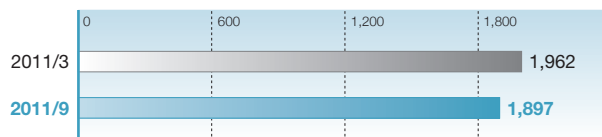
Point 3

## 貸借対照表のポイント

**総資産 1,897 億円**

現金及び預金、受取手形及び売掛金、上場株式の株価下落による投資有価証券の減少などから、総資産は1,897億10百万円(前連結会計年度末より65億24百万円減)となりました。

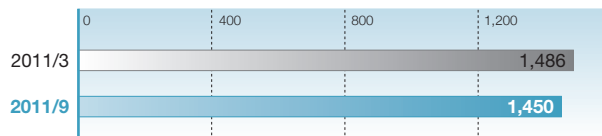
(億円)



**負債 1,450 億円**

長期借入金の減少などから、負債合計は1,450億79百万円(前連結会計年度末より35億33百万円減)となりました。このうち有利子負債(借入金)の当第2四半期連結会計期間末残高は、874億68百万円(前連結会計年度末より17億96百万円減)となりました。

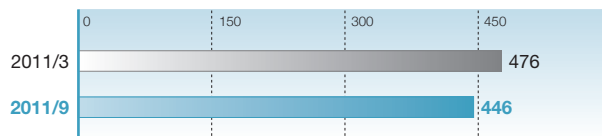
(億円)



**純資産 446 億円**

四半期純損失を計上した結果、純資産は446億31百万円(前連結会計年度末より29億91百万円減)となりました。

(億円)



## 連結損益計算書(要旨)

(百万円)

区 分	前第2四半期 連結累計期間 (2010年4月1日～ 2010年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2011年4月1日～ 2011年9月30日)
<b>Point 1</b> 売上高	<b>81,458</b>	<b>74,156</b>
売上原価	72,858	65,156
売上総利益	8,600	9,000
販売費及び一般管理費	8,339	8,702
<b>Point 2</b> 営業利益	<b>260</b>	<b>298</b>
営業外収益	608	626
営業外費用	1,499	1,269
<b>Point 3</b> 経常損失(△)	<b>△629</b>	<b>△345</b>
特別利益	219	17
特別損失	417	3,526
税金等調整前四半期純損失(△)	△828	△3,853
法人税、住民税及び事業税	206	163
法人税等調整額	△773	△549
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△261	△3,467
少数株主損失(△)	△25	△207
<b>Point 4</b> 四半期純損失(△)	<b>△236</b>	<b>△3,259</b>

## 損益計算書のポイント

### 売上高 **741**億円

産業機械事業、開発機械(ロックドリル)事業、ユニック事業は増収となりましたが、金属事業、電子材料事業が大きく減収となった結果、売上高は741億56百万円(対前年同期比73億1百万円減)となりました。

### 営業利益 **2**億円

電子材料事業は減益となりましたが、産業機械事業、開発機械(ロックドリル)事業、ユニック事業が増益となった結果、営業利益は2億98百万円(対前年同期比37百万円増)となりました。

### 経常損失(△) **△3**億円

営業利益の増加などから、経常損失は3億45百万円(対前年同期比2億84百万円の損失減)となりました。

### 四半期純損失(△) **△32**億円

特別損失に投資有価証券評価損32億36百万円他を計上した結果、四半期純損失は32億59百万円(対前年同期比30億22百万円の損失増)となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(百万円)

区 分	前第2四半期 連結累計期間 (2010年4月1日～ 2010年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2011年4月1日～ 2011年9月30日)
<b>Point 1</b> 営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>7,070</b>	<b>418</b>
<b>Point 2</b> 投資活動によるキャッシュ・フロー	<b>△720</b>	<b>△548</b>
<b>Point 3</b> 財務活動によるキャッシュ・フロー	<b>△2,569</b>	<b>△1,952</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△242	51
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,538	△2,030
現金及び現金同等物の期首残高	20,257	16,271
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,796	14,240

## キャッシュ・フロー計算書のポイント

### 営業活動によるキャッシュ・フロー **4**億円の純収入

売上債権の減少などから、営業活動によるキャッシュ・フローは4億18百万円の純収入となりました。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー **5**億円の純支出

有形固定資産の取得による支出などから、投資活動によるキャッシュ・フローは5億48百万円の純支出となりました。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー **19**億円の純支出

短期および長期借入金の返済による支出などから、財務活動によるキャッシュ・フローは19億52百万円の純支出となりました。





**「古河機械金属」という社名の由来は？**



**多岐にわたる事業分野に進出している当社の姿を表すものです。**

1875年(明治8年)の創業当初、当社の事業分野は銅鉱石の採掘・製錬などの「鉱業」であり、社名も「古河鉱業」でした。しかし、時代が経つにつれ、機械事業を中心に金属、電子材料、化成品など、お客様のニーズに合わせてさまざまな分野に進出するようになりました。

このため、「古河鉱業」という社名では当社の実態を表すことが難しくなっていました。事業を円滑に進めるうえで、お客様に当社の実態を正しく理解していただくことは不可欠であることから、1989年(平成元年)に現在の社名に変更しました。



**古河機械金属の企業理念「変革」「創造」「共存」とは？**



**社会に信頼される会社を実現するために最も必要となる考え方を集約したものです。**

1999年(平成11年)に策定した「企業理念」は、21世紀の古河機械金属を「信頼される会社」にしていくために、実践しなければならない必要な考え方を示したものです。

「変革」は、伝統を過信せずに、責任を持って思考・決断・実行すること。「創造」は、顧客に信頼される技術、市場ニーズを先取りした技術を追求すること。「共存」は、社会、株主、取引先などを意識した誠実な企業行動

を心がけるとともに、環境と調和する社会の実現に貢献することを示しています。

企業として永く発展し続けるためには、さまざまな課題や問題点をクリアしていく必要があります。「変革」「創造」「共存」は、それらをクリアするうえで全員の力を一方向に結集していく礎となっています。

# 会社概要及び株式の状況

(2011年9月30日現在)

## 会社概要

古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO., LTD.

創業 1875(明治8)年8月  
 設立 1918(大正7)年4月  
 資本金 28,208,182,500円  
 従業員数 2,770名(連結)

### 主な事業(古河機械金属グループ)

産業機械工業 土木建設業 非鉄金属製錬業 電子材料工業 化学工業  
 塗料業 不動産業 燃料販売業

## 主な事業所

### 本社

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)  
 (03)3212-6570

### 支社・支店・事業所

大阪支社 東北支社 九州支店 札幌支店 名古屋支店 足尾事業所  
 筑豊事務所

### 研究所

技術研究所 素材総合研究所 半導体装置事業室 ナイトライド事業室

### 主要なグループ会社

古河産機システムズ(株) 古河ロックドリル(株) 古河ユニック(株)  
 古河メタルリソース(株) 古河電子(株) 古河ケミカルズ(株)  
 (株)トウベ 古河コマース(株)

## 取締役及び監査役

代表取締役社長 相馬 信義  
 専務取締役 座間 学  
 常務取締役 江本 善仁  
 常務取締役 中村 晋  
 常務取締役 松本 敏雄  
 取締役 宮川 尚久  
 社外取締役 古河 潤之助  
 常勤監査役 南平 忠敏  
 常勤監査役 幸崎 雅弥  
 社外監査役 石原 民樹  
 社外監査役 友常 信之  
 社外監査役 佐藤 美樹

## 執行役員

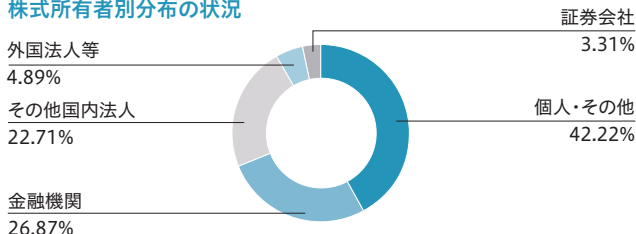
専務執行役員 座間 学  
 常務執行役員 江本 善仁  
 常務執行役員 中村 晋  
 常務執行役員 松本 敏雄  
 上級執行役員 宮川 尚久  
 上級執行役員 中川 敏一  
 上級執行役員 富山 安治  
 上級執行役員 碓井 彰  
 上級執行役員 梅崎 康一郎  
 執行役員 渡邊 修  
 執行役員 猿橋 三郎  
 執行役員 柳澤 憲博  
 執行役員 市村 謙二  
 執行役員 大田 彰則  
 執行役員 渡邊 泰史  
 執行役員 岩田 穂

## 株式の状況

### 株式

発行可能株式総数 ..... 800,000,000株  
 発行済株式の総数 ..... 404,455,680株  
 株主総数 ..... 35,669名

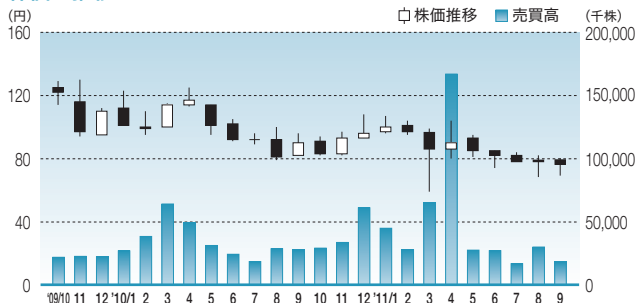
### 株式所有者別分布の状況



### 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
朝日生命保険相互会社	27,923 千株	6.90%
清和綜合建物株式会社	15,034	3.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,707	3.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,477	3.08
株式会社損害保険ジャパン	12,429	3.07
中央不動産株式会社	9,712	2.40
富士通株式会社	9,617	2.37
古河電気工業株式会社	8,777	2.17
富士電機株式会社	8,620	2.13
横浜ゴム株式会社	8,510	2.10

### 株価の推移



## 株主メモ

- **本社**  
〒100-8370 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号  
電話 (03)3212-6561(法務部)
- **事業年度の末日** 3月31日
- **定時株主総会** 6月
- **定時株主総会の基準日** 3月31日
- **期末配当の基準日** 3月31日  
中間配当を実施するときの基準日は9月30日
- **公告掲載のホームページ**  
<http://www.furukawakk.co.jp>  
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)
- **単元株式数** 1,000 株
- **株主名簿管理人**  
東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社
- **同事務取扱所(郵便物送付先及び照会先)**  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 (0120)78-2031(フリーダイヤル)

## お知らせ

- **住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について**  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座のない株主様につきましては、当社が特別口座を開設し管理していますので、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- **未払配当金の支払いについて**  
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

## WebサイトでもIR情報をご覧いただけます!

当社では、Webサイトに「株主・投資家情報」ページを設け、IR情報を開示しています。

最新ニュースや各種資料・データを掲載しているほか、個人投資家の皆様に当社の特徴をわかりやすく、かつコンパクトにご紹介するコンテンツも用意しています。

なかでも「5分でわかる!古河機械金属」は、当社の製品と歴史を簡潔にわかりやすくご説明するもので、短い時間で情報を得ることができる大好評をいただいています。ぜひ、ご活用ください。



株主・投資家情報ページ  
<http://www.furukawakk.co.jp/ir/>



Flashコンテンツ:  
5分でわかる!古河機械金属  
<http://www.furukawakk.co.jp/data/index.html>

本サイトは、日興アイ・アール株式会社の「2010年度全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」総合ランキングにおいて、優秀サイトに選ばれています。

# FURUKAWA CO.,LTD.

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)  
電話 (03)3212-6570  
<http://www.furukawakk.co.jp>

